

(様式第1号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和6年度 第2回公民館運営審議会
日時	令和7年2月13日(木) 13時30分～
場所	芦屋市民センター別館 217室
出席者	委員長 今西 幸蔵 副委員長 西本 望 委員 鹿野 玲子 委員 越智 高敏 委員 丹羽 洋文 委員 横田 薫
事務局	企画部国際文化推進室 田嶋 修 教育委員会 教育部教育総括室 社会教育推進課長 渡邊 一義 (担当課) 公民館長 木野 隆
会議の公開	■ 公開 ----- □ 非公開 □ 一部公開 会議の冒頭に諮り、出席者○人中○人の賛成多数により決定した。 〔芦屋市情報公開条例第19条の規定により非公開・一部公開は出席者の3分の2以上の賛成が必要〕 <非公開・一部公開とした場合の理由>
傍聴者数	0 人 (公開又は一部公開の場合に記入すること。)

1 会議次第

(1) 議事

・報告事項

令和6年度 芦屋川カレッジ及び大学院及び公民館講座等の実施状況について)

・協議事項

令和7年度 公民館講座等の実施予定について (資料参照)

その他

2 資料

令和6年度 第2回公民館運営審議会資料

「令和6年度 芦屋川カレッジ及び大学院及び公民館講座等の実施状況について及び
令和7年度 公民館講座等の実施予定について」

3 内容

(1) 委員長あいさつ

(2) 審議会成立の確認

(3) 傍聴者の確認

(4) 議事

(i) 令和6年度 芦屋川カレッジ及び大学院及び公民館講座等の実施状況報告及び質疑
実施状況についての説明 《事務局：事業受託業者》

【質疑】

(横田委員) 公民館講座の講義時間帯は、いつですか。

(事務局) 10時から11時30分の場合と14時から15時30分の場合があります。

(横田委員) 「にほんごがっきゅう」もですか。

(事務局) 「にほんごがっきゅう」は、午前中に実施しております。

(横田委員) 「にほんごがっきゅう」は、大人のかたが対象となっていると思いますので、午前中は、お仕事されているかたがいらしゃって、参加できないので、例えば、時間帯を夕方にするとか、時間帯を変えることで参加者が増えるのではないのでしょうか。

(事務局) 今のところ、講師のかたと受講生が少なく、20名程度で、手一杯であり、前回に話題になったかもしれませんが、子どもを対象にやってみたいと思っております。その際には、時間帯を考えていきたいと思っております。

(今西委員長) 「にほんごがっきゅう」は日本の大きな課題の一つになっています。事業として実施されていることに敬意を表しますが、ご意見があったように朝だけというのは、どうかと思います。夕方や夜もご検討いただければと思います。しかし、ご回答にあったように指導者の人数などの制約があつて難しいことは、よく理解できます。一つの検討モデルとして考えていただきたいのですが、大阪経済大学で教えていた時のことですが、ボランティアで学生が、大阪市内の「にほんごがっきゅう」に出向いていました。教える力量があるかどうかということもありますが、人と人の繋がりですので、参考にご検討いただければと思います。

(ii) 令和7年度 公民館講座等の実施予定の報告及び質疑・意見等

来年度の実施予定事業の説明

《事務局：事業受託業者》

協議事項

令和7年度の実施事業の考えとして、令和7年10月に策定される芦屋市総合計画に合わせたものとし、芦屋市が力を入れている街の景観づくりや地域の防災や環境保全等を公民館の講座やカレッジの講座に取り込んでいきたいと考えています。また、公民館事業で、社会教育行政の一環として、受講者には、地域づくりに貢献していただくために、芦屋市の課題を理解していただき、課題解決に向けて講座を行っていききたいと思っております。

《講座等の説明》

【質疑】

(鹿野委員) 以前から、時代が変わり、芦屋川カレッジに受講生が集まらないと発言されていましたが、私の印象として、募集要項に、卒業生したら学友会に入会することや仲が良くなって同好会を設立することはカレッジを修了した方が、よかったと思ってされることで、よいことと思いますが、初めてカレッジに入会しようとする人は、卒業後のことまで考えていないと思います。

また、入学すれば、カレッジの修了後の先の先まで関わりを持たなくてはならないグループだと認識して、気持ちが重くなって入会に消極的になるのではないかと思います。学友会への加入等については、カレッジ入学後に会に馴染んでから説明をすればよいのかと思います。

(事務局) 友だちに口コミでカレッジ入学の勧誘するときは、カレッジ修了後も同好会を立ち上げて楽しいことを伝えたりしますが、芦屋川カレッジは、学習することも目的の1つですが、仲間づくりとしての人と人の交流を増やしたいことも目的の1つですので、ご意見は、よく理解しておりますが、今後、うまく伝えていきたいと思えます。

(今西委員長)

参加者が増えるのが望みですので、入学するときに気が重いと感ずるのであれば、一緒に入ることなど、社会教育で、よく言われることですが、誰しもが、何かを始めるときは不安を感ずるので、一緒に入るということをしましょうということですか。参考にしてください。

(丹羽委員) 公民館運営審議会の委員の枠にPTA協議会があつて、私が、選出されていますが、どんなことを期待されているか、何をどのように発言すればよいのか。来年度の引継ぎのこともありますので、

(事務局) 団体に依頼していますのは、芦屋川カレッジ学友会と芦屋市PTA協議会の2団体です。委員としては、学校現場と家庭教育関係、そして、学識者で構成されています。生涯学習の中でPTAは、子どもとの関連性があり、世代を超えたご意見がいただけると考えています

(丹羽委員) それでは、いろいろキーワードが出ているようで、様々な講座があつて、学術面で勉強するようになっていて、それと課題です、多世代との交流、外国人関係です。それとカレッジですと地域文化や民俗学、かなり広範囲で実施されていて、すごいことだと思いましたが、受講人数が減ってきているとのこと。参加者が少なくなっているんだということだと思えます。確かに私に世代で行こうという人は周りにいません。限られた意識の高い人が参加されているのかもしれませんが、なかなか課題を一手に解決することは難しいのではないかと思います。だから、いろいろと工夫されていると思います。私自身、どうすれば課題解決するかを考えてみたのです。活動として、盆踊りしかないのではないかとりました。昨年度に話をしましたが、民族的に過去に芦屋では、どんな盆踊りがあつたのか。それを含めて多世代交流がやりやすいと思えます。子供たちも好きでしょうし、学術面を別としても、行ってみたいと思うだろうし、いろんな課

題をカバーできると思います。皆さんが様々な課題を解決しようと工夫していることを知らないと思うんです。これがキーワードではないかと思います。

(事務局) 昨年、丹羽委員からご意見をいただきました。地域交流もあり、素晴らしいご提案かと思いましたが、そして、内部で協議をしましたが、会場を見つけることが難しいという結論になりました。そこで、学校選出の横田委員に相談すべきかと思っておりました。しかし、学校もコミスクであったり、学校行事もあり、なかなか難しいものがあります。

(横田委員) 公民館が実施するより、コミスクが主体となってなったほうが良いのではないかと思います。

(事務局) 確かに公民館では、難しいと思います。地域参画のこともありますし、関係部署との連携も必要となります。今後、考えていきたいと思います。

(越智委員) 芦屋川カレッジ学友会から選出されていて、学友会で会長をしておりますもともとカレッジは、60歳でリタイヤした人が勉強しようというものです。私もそうだったのですが、小中学校で習った教科書が時代とともに変わってきているということで、再復習ということで、私は、35期生で平成30年に入学しました。過去に実施した講座のジャンルの変遷ですが、コロナ前に関しては、受講者が100名あります。コロナ禍でも90名ぐらいありました。1つ言えるのは、サラリーマンは、年金がもらえるのは、65歳になりました。また、定年延長で70歳になりました。女性の方や自営業者の男性は入会しやすいけれども、サラリーマンを終えて、少し休憩すると71歳ぐらいになるんです。高齢者のどこの団体も同様の傾向があって、芦屋市シルバー人材センターも同じ悩みを抱えています。それと受託業者の代表である河内厚郎さんは私と中高6年間、一緒に同じ学校で学びました。阪神モダリズムという言葉を作られたのは、河内さんですが、私のカレッジ生の時は、地元のテーマは、5~6コマぐらい、それ以外に中世歴史、西洋美術史、古典芸能、健康問題等いろんなジャンルしていたけれど、現在、地元テーマが12コマぐらい、全体が34コマぐらい、サイエンスが5コマあったのが、2コマぐらいです。比較的サイエンスが減ってきており、理系関連が減ってきて、社会文学が増えてきている。毎年、分析しております。学友会の中の意見で、もう少し、理系の講座も考えてほしい。今、学友会は、年間2,000円の会費で、会員580名で、年間4回、大ホールを貸りて講演会をしております。1つは、時事問題、「今の日本を取り巻く環境」、と もう一つは、最新のサイエンス、あと文化と我々、高齢になってきておりますので健康問題と4つの分野で実施しております。そのところで、サイエンスが、どんどん変わってきています。3年前に北島先生が「病原菌」の最新の講義をしていただきました。しかし、どんどんと変わってきていますので、そのリタイヤした人が、中学高校で習った教科書の内容と違う、こういったことをやっている。そうすると皆さんが解りやすい、少なくとも学友会では、最新の4つの課題を何とか、東京から招いてでも、少ない予算でやっていこうと昨年度から実施しています。そういう意味では、カレッジの卒業生は学習意欲がある。そして、カレッジの

卒業生は、次に学習するところがないので、大学院の応募者が多い訳です。

大学院に10年以上、通っている方も多くいらっしゃいます。

ですので、カレッジの卒業生は、知識が高い。カレッジ自体が、毎週水曜日にありますので、全くカレッジデーです。カレッジ生は、修了すると水曜ロスとなりますので、同好会等を設立したりするのです。学友会は、最後のお付き合いの場所という形で、だいたい、グループは、10年間活動したのち、休止になったりして、年齢的な活動は、65歳から85歳と20年です。

要するにリタイヤされてからの学習は、70歳ぐらいからになりますが、教科書で学んだことが、いろいろと変わってきて、新しいことを学べるんだと感じてくれればと思います。

(今西委員長)

どうもありがとうございました。率直に現状を説明いただきまして、大変、参考になりました。

(西本副委員) 公民館講座の回数ですが、3回であったりすると、受講者の学習機会が増えるので、よいことだと思います。講師にとっても複数回あることは伝えやすいと思います。運営側にとってもやりがいがあると思います。

(今西委員長) ありがとうございました。

(横田委員) 協議事項の中に、次に生かそうというのがありますが、なかなか難しいという話があったので、学校現場では、体験とか対話とかが主体的に学びに繋がっていくところがあるので、また、体験や対話した中身は、だれかに話したくなりますし、自分が経験や体験したことは、次に生かそうと気持ちになると思います。それは、大人も子供も一緒だと思います。

そういったところで、座学も大事ですが、また、座学を聞くのが好きな方もいますが、例えば、グループ内で対話するとか実際に見に行くとか、ヨドコウ迎賓館に行って現地で説明を受けたら生かそうかなあといった気になるのではないかとといったところを意識しながらやれば、次に生かそうっていうことに繋がるのではないかと思います。

(今西委員長) 貴重なご意見、ありがとうございました。

それでは、まとめさせていただきたいのですが、3つの柱ですが、事務局からの説明の中に、学習した結果、その成果を自らの教養としてとどめておく方と社会貢献に発展する方との割合が、1対2と説明がありました。しかし、他の自治体では、逆になっています。自身の教養的なことで終えたいという方が7割、社会貢献に発展する方が、3割の比率になっています。先ほどの話をお聞きして、芦屋市は、すごいなあと改めて感じました。ただ、私の意見ですが、あまり無理して社会貢献性を出したら却ってしんどくなってしまう、ですから、その部分は、ほどほどにしなければならない。教養的で終わってしまう方がいてもいいんです。要するに自己実現と自己満足で、豊かな人生を送ることが大前提ですので、それはそれで個人の中で学びが完結してもいいと思います。その人たちを無理に引っ張り出すのは、いかがなものかと思います。それと、街の課題を出すことによって、人を集めたらどうかという意見、とて

も良いアイデアと思います。こういう課題があるから、みんなで何かしようとするのは、いいと思いますが、この問題の一番大事なことは、学習成果のある人と実際の活動の間を結ぶコーディネーターが一番難しい、これは、市民に任せるものではなく行政の仕事なんです。したがって、例えば、行政が両方をマッチングする人を要請するということを言っているわけなんですけれど、そういう場や人とか情報とかを考えていただきながら上手く、学習を終えた方や学習中の方を含めて、それが街の発展につながるように上手くしていただくように工夫していただければと思います。これが1つです。

2つ目、先ほど丹羽委員からPTAの役割について、会から選出されて、次に引き継ぐことで、お話がありました。今、社会教育の世界の中での問題は、社会教育関係団体と社会教育の関係性で大変難しい問題です。

憲法第89条に関わってしまっていて、社会教育法第13条にも抵触することですが、この関係について、芦屋市は大丈夫かもしれませんが、他の市では、PTAがなくなっているところがどんどん出てきています。PTA組織がなくなってしまう。そこまできています。現状、そういう街があります。PTAに限らず、整理しながらやっていかれたらよいかと思います。

これは、大きな課題かと思います。

3つ目は、丹羽委員からあった話で「盆踊り」のことを言われました。社会教育史の研究者として、近世江戸時代の社会教育の中心はお祭りです。盆踊りもお祭りに属するものだと思います。祭りを大事にする。それは、元々、米の豊穰を祈って、宗教的なものであったかもしれませんが、もっと大衆的に私たちが、ある時間帯に集まって酒を飲んだり、踊ったりして楽しんだりしていることを捉えて、まさしく、社会教育なんです。ですから、盆踊りを中心に新しい展開を考えていただくことは大事なことです。しかし、場所の問題で、学校は、厳しい現実があつて、話として出ていましたコミスクなどの学校を利用している団体と調整をしていただいて、何とか各校区で独自にお祭りをしていただいて、これが、コミュニティの最初の核となって、先ほどの丹羽委員のご発言、とても凄いなと思ひまして、それは、核となることについて考えていただければと思います。

これで、令和6年度 第2回芦屋市立公民館運営審議会を閉会いたします。